

日本原子力学会 倫理委員会（第 101 回）

議事要旨

日 時 2018 年 1 月 9 日（火）13:30～18:40
場 所 東京大学工学部 8 号館 510 号室
出席者 大場委員長，三村副委員長，宇奈手幹事，伊藤委員，金山委員，神谷委員，辻委員，
出町委員，中野委員，中村委員，原田委員，福家委員，高橋特別委員，布目特別委員，

配布資料

資料 101-1：第 100 回倫理委員会議事要旨（案）
資料 101-2：企画セッションと研究会の中長期運営関連資料
資料 101-3：倫理委員会 2018 年春の年会企画セッションに係る企画・準備について（案）
資料 101-4-1：第 19 回倫理研究会の企画案（※資料名は正しいが内容は第 21 回倫理研究会）
資料 101-4-2：工学部 11 号館講堂概要
資料 101-5：2018 年秋の大会企画セッションについて
資料 100-6：最近の不正問題等について

議事

1. 資料 101-1 により，前回議事要旨（案）が説明された。
 - (1) 読み手に誤解を与えるような表記について議論がなされ，議事録(案)の修正を行うこととした。よって，第 100 回の議事録は，後日，修正案提示の上，委員会 ML にて最終承認をすることとした。
 - (2) 幹事の負担軽減のため，今後の議事録は輪番制（1 人／回）にすることとした。
 - (3) 議事録の記述の詳細性について議論がなされた。議事要旨の最終版は，委員長および副委員長で確認・作成することとした。
 - (4) 委員長より
 - ・ 4(3)にあるミニ講演会を本日から行うこと
 - ・ 5(1)に関連し，先日北村オブザーバが JAEA の経営層への講演を行ったこと
 - ・ 7 の委員増強についての対応についての補足がなされた。
2. 資料 101-2 について，倫理委員会の中長期運営を見える化した表の作成目的と活動予定について確認した。
 - (1) このような表は委員会の議論に大変に役立つことから，毎回配布することとした。
 - (2) 記載する内容を，イベントだけでなく，倫理規程の改定や，事例集の作成等，委員会の活動全体を網羅し，各担当委員も記載した表にすることとした。また期間も，現年度およびその前後の 3 年度分とすることとした。
 - (3) 企画セッション（春の年会・3 月，秋の大会・9 月）と倫理研究会に適度な期間があることが望

- ましいことから、次年度以降、倫理研究会の開催は、6月と12月を基本とすることとした。
- (4) 第21回および第22回倫理研究会の担当者を確認するとともに、第22回倫理研究会については、次回委員会で議論することを確認した。
3. 資料100-3に基づき、2018年春の年会企画セッションの企画内容や準備について確認した。また、企画申請段階では無料公開セッションを希望したものの、部会等運営委員会の議論を受け、最終的に取り下げたことを受け、
- ・ 理事会での議論の紹介（特別委員より）
 - ・ 倫理規程に基づいて検討した場合、学会は無料公開セッションをどう位置づけ、どのように事前広報すべきか
 - ・ 倫理委員会として無料公開セッションを開催するにはどのようなことを検討すべきかについて議論した。
4. 資料101-4-1及び100-4-2に基づき、第21回倫理研究会について議論した。
- (1) 今回の研究会は、2017年秋の大会企画セッションを受けたフォローアップであるが、前回企画セッション参加者のアンケートでは、「倫理の話ではないのではないか？」との意見が複数あったことが紹介され、今回の研究会は、「安全文化」や「倫理」を軸とすることを再度確認した。委員長による基調講演にて、1F事故後の倫理委員会の活動や問題意識、研究会の趣旨を説明し、各講師による講演に繋げていく。
- (2) 講演者にはすでに内諾を得ているが、講演趣旨を再度確認するとともに、講演時間等の詳細を担当および委員長で早急に固めることとした。
- (3) 1/19を目標にプログラムを確定し、研究会の案内を学会ML等にて行うこととした。
- (4) 参加費は2000円とすることとした。
- (5) 発表資料の配付については、講演者と相談して決めることとした。
- (6) 参加者の意見をパネルディスカッションに反映できる仕組みとして、受付の際、A5版程度の質問用紙を配布し、パネルディスカッション前の休憩時間に集めることとした。
- (7) 当日の受付等事務について確認した。
5. 資料101-5に基づき、2018年秋の大会にて行う企画セッションの内容について議論した。
- ・ 研究者と技術者の違いをどのように捉え、どのような議論を行うのか、組織の構成員である管理職や外部委託者の考慮などについても議論がなされた結果、今回は、研究者のみを対象とし、研究者が安全や安全文化（所属組織全体の活動）をどう捉えているのか／どう捉えるべきかを内容として、検討を継続することとした。
 - ・ 企画セッションへは、複数の研究機関やメーカーにも報告を求めることが挙げられた。
6. 委員長から、宇奈手幹事から幹事交代の申し出があったことから、後任には神谷委員が幹事となることが提案され、承認された。なお、宇奈手幹事は、引き続き委員として委員会に参画する。

7. 再稼働に係わる調査に関する意見表明については、まだ調整および検討中との報告があった。
8. 倫理規程改定について、理事会承認の手続き等について確認し、早急に改定版を確定するよう努めることとした。また、倫理規程の印刷用 PDF ファイルを作成し、委員会 HP に掲載することとした。
9. 高橋特別委員によるミニ講演が行われ、意見交換をした。講演の内容は、①理事の立場からみた倫理委員会、②認知バイアスから逃れることができない人間、③行動指針を読んで（素直に）思うこと、であった。
10. 日本学術振興会委員会「未来の原子力技術」の資料の共有について議論した。
11. 倫理規程の理解を深めるために参考となる書籍を委員会 HP に掲載してはどうかとの提案があり、基本的に了承された。次回及び ML を通じて、具体的な掲載リスト案に基づき議論することとした。
12. 次回の委員会は、3月5日（月）もしくは8日（木）に開催することとした。
13. 資料 101-6 に基づき、前回に続いて、最近の不正問題等について意見交換を行った。これらの不正問題を、単なる知見とするだけでなく、倫理規程の改定や委員会の活動に反映することが重要であるとの考えが共有された。報告書が出揃った時期に、あらためて意見交換することとした。

以上